



発行・編集：宮古保護区保護司会

☎ (0980) 79 - 0652

FAX " 79 - 0653

E-mail : miyako-hogoku@silk.ocn.ne.jp

第七十回 社会を明るくする運動 作文コンテスト

(小学校の部) 最優秀賞(県最優秀賞)



強く心に願う事

多良間小学校六年 田村 花恵

日本で起こる様々な事件や犯罪の一つに、「虐待」があります。毎年、必ずといっていいほど虐待が取り上げられていて、まだ小さい子どもの命が親の手によって亡くなっています。

私は五年生の冬休みに、那覇市にある家庭裁判所の見学へ行きました。見学では一回目の裁判をする部屋、二回目の裁判をする部屋など、いろいろな部屋がありました。

その中でも一番印象に残っている部屋は、とても可愛らしい部屋でした。ぬいぐるみや積み木などたくさんのおもちゃがあつて、その部屋だけ見ると、裁判所の中にあるとは思えないほどでした。私は、この部屋が何のためにあるのか気になったので、案内してくれた人に聞いてみました。すると、

「ここは、虐待を受けた子どもと、その親が引きはなされた後、また会うことが許された親子が心を開き合う場所だよ。」と教えてくれました。案内の人は続けて、

「実は、よく使われている部屋なんだよ。」と言いました。

私は、家に帰ってから、「虐待」と「よく使われる」という言葉が頭からはなれられません。よく使われるということとは、私が住んでいる沖縄でも、たくさん虐待が起こっているということだからです。それに気づいた時は、とてもおどろきました。まさか、私の身近で虐待の事件が起きているなんて、思ってもみなかったからです。もしかししたら、私に通っている学校、または、同じ学年、同じクラスに、いつも苦しくて

辛い思いをしている人がいるのでしょうか？

もし、いたとしたら、私はほおっておけません。私も、その人の気持ちを考えると、苦しくて、辛くて、とてもショックになります。

どうして、虐待は起こってしまうのでしょうか。どうしたら、虐待はなくなるのでしょうか。考えてみたけれど、私は虐待はなくならないと思いました。

なぜなら、人は誰でも怒りの心を持っているからです。怒りをがまんできる人や、自分の感情をコントロールできる人もいるけれど、それができない人だつてたくさんいます。そんな人達が、急に怒りをコントロールしつてと言われても、不可能だと思います。

しかし、そのままでは虐待は続いてしまうし、虐待を受けた子どもの心は傷ついたままです。その傷を少しでもいやしていくためには、人との関わりを増やし、誰かに相談する必要があります。私は思います。なぜなら、私も悩んだ時は、親や友達など相談できる人に相談することで、心が軽くなるからです。

そうやって、人との関わりを増やしていくことで、傷ついた人達の人生や世の中が良い方向へ変わるかもしれません。一人ひとりが相手を思いやり、関わりを増やしていくことで、たくさん人の心が明るくなっていくしてほしいです。そして、いつの日か子どもに怒りをぶつけていた親達も、相談できる相手が見つかり、自分の過ちに気がつく日が来ると思っています。

「虐待」という言葉が、きえる日を私は、強く願います。



小学校の部 社明表彰式(令2・9月24日)
於：多良間小学校体育館

(中学校の部) 最優秀賞



私たちはどう生きるか

城辺中学校一年 野路 まいひ

最近、皆様はテレビをつけたとき、どのような言葉を耳にするでしょうか。一番多く耳にするのは、「新型コロナウイルス」「ソーシャルディスタンス」「三密」「消毒」「自粛要請」などのCOVID-19に関することだと思います。

この「感染症」の怖さは、病気が不安を生み、不安が差別をつくり、差別が病気を拡散してしまうことだと思います。

ウイルスは目に見えず、ワクチンや治療薬もどうなったかも分からず、不透明な点が多いです。そのため、強い不安を感じ、気づく力、人の言つことを聞き入れる力、自分を支える力が弱ってしまつてしょう。そしてこの不安が保身のための差別に走らせ、感染者達や濃厚接触者、ひいては医療、コロナウイルス関係者などに対する差別が始まつてしまいます。こうなると、差別されることを恐れてコロナに感染

した人、濃厚接触者などが隠すようになつてしまつ、という悪循環が発生してしまつと考えました。

ウイルスに対する不安が分かりやすく表れた例として、トイレトペーパー、マスク、消毒液などの買い占めです。最近では減つてきていますが、今だに店頭に並んでいることは少なく、消毒液などほとんど見かけることはありません。他にもコロナウイルスとは無関係の物が買い占められることや、吉村大阪府知事がうがい薬でコロナを撃退できると言い、その翌日誤りだったといったのにも拘わらず買い占めが数日間続いたことなどからも分かります。

では、この悪循環はどうしたら防げるのでしょうか。

まず、病気にかからないことが大切です。ですから、一人一人が手洗いや咳エチケット、密を避けるなどのことが重要になります。

次に、不安に対処します。不安は、自分の身を守るために必要な感情ですが、私達の冷静さを奪つこともあり、過度な不安はよくないでしょう。不安にとらわれないためには、「ウイルスの悪い情報ばかりを見ないようにする」「今だからできることをする」「いつもの習慣や行動をする」など、一度落ちついてみるのが大切だと思います。

そして最後の差別を生まないこと。まず、なぜ差別が生まれるのかと言つと、過度な不安や恐怖心を抱いた人が、明確で分かりやすい敵を作り、排除して安心感を得ようとするからです。これを防ぐためには、それに同調しないこと、治療者や医療関係者など全ての感染を拡大させないように対処している方々に対する敬意とねぎらい、感謝の心を忘れない事が大切だと考えました。

この「コロナウイルス」が発生してから私達の行動や生活パターンが大きく変化しています。学生の私は中学校の入学が延期されたり、自宅待機で学校や塾にも行けずタブレット学習などで学習を続けたり、と、家で一人ですぐす時間だけが多くなりました。母の仕事も、「テレワーク」といった新しいスタイル

の仕事に変化していたり、あらゆる職業の方たちが、今、仕事を縮小さざるを得ない状況におちいつている厳しい不況が続いています。オリンピックが延期されたのも残念です。

今、私は薬物アレルギーがある為、あらゆる薬が使えないということもあり、学校に通えず自宅学習を続けています。友だちにも会えず淋しいですがこの期間、いろいろな体験をし、学んだ事も多くありました。マイナス面ばかり捉えるのではなく、この機を生かして今だからできることや、いつもは仕事でバラバラな家庭内での「コミュニケーション」を取るなど、逆に心のゆとりを持つチャンスだと思えます。

もちろん、私自身「感染したら？」といった恐怖心がないわけでは無いのですが、情報が常にあふれているこの社会だからこそ、何が正しいのか、どう生きるのかを広い視野と深い心をもって生きることの大切さを感じました。

私ももっとまわりに目を向け、人との関わりを多く持つて、助け合いながら、共存共栄していこうと思えます。

第七十回「社会を明るくする運動」作文宮古地区入賞者

第七十回「社会を明るくする運動」宮古地区推進委員会では、「社会を明るくする運動」作文コンテスト審査会を九月七日(月)に開催し、小学校の部十四点、中学校の部九点の応募があり、審査の結果次のように決定致しました。

第70回社会を明るくする運動「宮古地区推進委員会」
作文コンテスト審査結果(小学生の部)

	氏名	作品名	学校名	学年
最優秀賞	田村 花恵	「強く心に願う事」	多良間小学校	6年
優秀賞	諸見里 美柚	「犯罪をとめる輪」	多良間小学校	6年
優秀賞	外間 直	「いじめのない世界」	多良間小学校	6年
入選	清村 仁愛	「いじめをなくして幸せに」	多良間小学校	6年
入選	佐和田 ひまり	「虐待」	多良間小学校	6年
入選	宮國 安璃	「人の役にたったことの面白さ」	多良間小学校	6年

第70回社会を明るくする運動「宮古地区推進委員会」
作文コンテスト審査結果(中学生の部)

	氏名	作品名	学校名	学年
最優秀賞	野路 まいこ	「私たちはどう生きるか」	城辺中学校	1年
優秀賞	奥平 偉翔	「社会のために地域から」	多良間中学校	3年
優秀賞	桃原 司至	「社会を明るくする運動」	多良間中学校	3年
入選	浜川 藍香	「犯罪」	多良間中学校	3年
入選	伊藤 莉子	「ネットの使い方」	多良間中学校	3年
入選	清村 一生	「ネットの悪口等をなくすために」	多良間中学校	1年



中学校の部 社明表彰式(令2・9月24日)
於:城辺中学校体育館



中学校の部 社明表彰式(令2・9月23日)
於:多良間中学校体育館

- 小学校の部
最優秀賞(県知事賞)
田村 花恵 多良間小学校六年
「強く心に願う事」
- 優良賞(那覇保護観察所長賞)
諸見里 美柚 多良間小学校六年
「犯罪をとめる輪」
- 外間 直 多良間小学校六年
「いじめのない世界」
- 中学校の部
優秀賞(沖縄県保護司会連合会長賞)
桃原 司至 多良間中学校三年
「社会を明るくする運動」
- 奥平 偉翔 多良間中学校三年
「社会のために地域から」

第七十回「社会を明るくする運動」
沖縄県推進委員会の、「社会を明るくする運動」作文コンテスト審査会が十月二日(金)に開催され、宮古地区が推薦しました小学校の部、中学校の部の応募作品が、審査の結果次のように決定されました。誠にありがとうございます。



推進委員長挨拶を代読する伊良皆多良間村長(令2・9月23日)

あいわし

第七十回「社会を明るくする運動」宮古地区推進委員長

宮古島市長 下地 敏彦

本日入賞された児童生徒の皆さん、おめでとうございます。

入賞された皆さんは、身近な出来事を通じて気づく事や学ぶことを積み重ねることで、自分の考えや思いを形にし、みんなに伝えることができる力をたくさん持っていることだろうと思います。

新型コロナウイルス感染症の流行で大変な状況の中、本文コンテストに宮古島市、多良間村の児童生徒の皆さんから、多くの作品が集まりました。審査にあられた先生方からは、内容はどの作品もとても優秀で、犯罪や非行のない社会づくりを実現するためには、学校や家庭、地域の人々との繋がりが支えあうことの重要性を伝える作品が多かったというご意見をいただいております。

この社会を明るくする運動は、みんなが互いに助けあい、力をあわ



社明作文表彰式会場風景(多良間中学校体育館)

せて犯罪や非行のない社会を作っていくという運動です。皆さんも、住みなれた地域のこと、毎日楽しく過ごしている学校での出来事など、いつもの生活でふと感じたことをきっかけにして、自分には何ができるのだろうかと考え、積極的に行動してもらいたいと願っています。

今回、入賞したことを機会に、皆さんがこれからますます視野を広げ、伸びやかに成長し、充実して未来を築くことを期待します。

本日は本当におめでとうございます。

第七十回「社会を明るくする運動」作文コンテスト表彰式に寄せて

那覇保護観察所長 手塚 徹



「社会を明るくする運動」の作文を書いた小学生、中学生の皆さん、ありがとうございます。そして受賞された皆さん、おめでとうございます。

「社会を明るくする運動」は、皆さんの周りの社会が、今も明るくればこれからも明るく、もし明るくないと感じていけば、これからは明るくなるようにしていきたいと思います。これからの未来に向かっている運動です。第七十回のポスターにも「広がり、つながる未来の輪。」「Hand in hand(手を取り合って)」と書いてあります。

皆さんは作文で、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことを基に、犯罪や非行のない地域社会づくり、犯罪や非行をした人の立ち直りについて考えたことなどを綴っ

てくれました。

小学生の皆さんからは虐待、怒りのコントロール、人との関わり、自分の居場所、いじめ、周りの人達を大切に、思いやりや勇気の輪、みんなの手を差し伸べる、みんなで見守り育てていく、人の役に立つ、中学生の皆さんからは心のゆとりを持つ、人のためになること・人に感謝されることをする、身内や近所の人達など周りの人と助け合い優しさや感謝の心を持つ、笑顔があふれる社会を作る、一つ一つできることややれることを積み重ねる、今やるべきことを考えて何か目標を持つ、自分が被害者や加害者になるかもしれないことを考えてできるだけ安全に行動する、誰にでも優しくしていく、など、またこの他にも多くの大切なキーワードがありました。

みんなそれぞれで、また協力しながら、そついったことに気を配っていければ、これからの社会をきっと明るく保っていけると確信します。これからも住みやすい社会、命が大切に護られる社会を、地域のみんなのチカラで作って行きましよう。

第七十回「社会を明るくする運動」内閣総理大臣等メッセージ伝達式

第七十回「社会を明るくする運動」強調月間が七月一日から始まり、例年は宮古島市役所平良庁舎ロビーで、内閣総理大臣等メッセージ伝達式及び車両街頭広報宣伝式を開催していましたが、理事会で協議した結果、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、役員・地域活動正副部長で表敬訪問し伝達することになりました。

七月一日(水)当日は那覇保護観察所手塚徹所長を迎え、役員同席し午前十時三十分には下地敏彦宮古島市長を表敬訪問し内閣総理大臣・県知事メッセージを伝達、午前十一時三十分には宮國博宮古島市教育委員会教育長を表敬訪問し沖縄県教育委員会教育長メッセージを伝達致しました。

また、七月九日(木)には、多良間村へ河野博駐在官事務所保護観察官・砂川克佳事務局長が出向き、多良間村保護司大城隆夫・天久隆子両保護司も同席し、村長室において伊良光男多良間村長へ内閣総理大臣・県知事メッセージを伝達、池城三千雄教育長(代理垣花剛土木建設課長)へ沖縄県教育委員会教育長メッセージを伝達致しました。



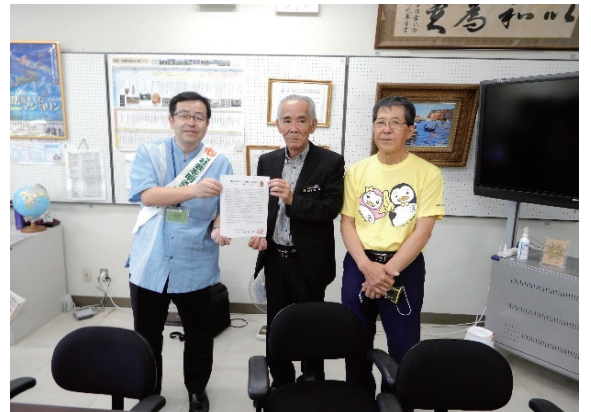
7/1内閣総理大臣メッセージを伝達する手塚所長



7/1内閣総理大臣メッセージ・県知事メッセージ伝達



7/1沖縄県教育長メッセージを伝達する手塚所長



7/1沖縄県教育長メッセージを伝達



7/9内閣総理大臣メッセージを伝達する河野主任官



7/9内閣総理大臣・県知事・県教育長メッセージ伝達

“動” 内閣総理大臣等メッセージ



内閣総理大臣
安倍 晋三

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に向けて

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。昭和二十六年に始まり、毎年多数のご参加を得ながら広がり、本年、記念すべき第七十回を迎えました。

安全で安心な国づくりのためには、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちを再び地域の輪に迎え入れ、責任ある社会の一員となるよう支えることで、誰もがやり直し、活躍できる社会を構築することが重要です。保護司を始め地域の皆様を中心となり、国、地方公共団体、民間が「Hand in hand」、共に手を携え、更生保護のネットワークを広げ、東京オリンピック・パラリンピックを

東京オリンピック・パラリンピックを

契機とし、世界から集う多くの方々、我が国において、温かな励ましの笑顔にあふれた「明るい社会」、誰もが「Restart」できる社会を体感していただくことは、世界平和にも通ずるものと確信しております。

「社会を明るくする運動」の社会的意義をご理解いただき、犯罪のない幸福な社会づくりにとりくむ決意のしるしである「幸福の黄色い羽根」のもと、様々な分野から、多くの方々が本運動にご参加いただけますようご協力をお願いいたします。



沖縄県知事
玉城 デニー

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」にあたって

はいさい ぐすーよー
ちゅーうがなびら

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深

め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くことを目的に、毎年七月を強調月間として全国で関連行事が行われています。

今年で第七十回を迎えることとなり、沖縄県においても、地域に根ざした住民運動として定着しております。

さて、沖縄県における少年事件の情勢を見ますと、刑法犯少年の数は、この十年で三分の一程度となり、大幅に減少しておりますが、令和元年中の成人を含む全刑法犯検挙人員のうち、少年の占める割合はや計十七%となっており、全国と比較するとまだまだ高い状況にあります。

更に、子どもの貧困率が全国平均と比べ高い状態にあるほか、昨年は、高校生を含む少年大麻事件の検挙が急増し、社会問題となるなど、次代を担う少年を取り巻く環境は極めて深刻かつ憂慮すべき状況にあります。

沖縄県では、このような状況下に適切に対応するため、犯罪の発生を抑え、すべての人々が安全で安心して暮らせる地域社会の実現をめざし、沖縄県教育委員会や沖縄県警察と連携して「ちゅらさん運動」を実施するとともに、「子どもの貧困対策」に積極的に取り組んでいるところであります。

「社会を明るくする運動」沖縄県推進

第70回 “社会を明るくする運

委員会におきましても、沖縄県独自の運動に合わせ、全国とともに「犯罪や非行を防止し、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を築くこと」、「犯罪や非行をした人が再び犯罪や非行をしないように、その立ち直りを支えること」を目標に掲げ、県内各地で運動を推進することとしております。

また、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを地域ぐるみで支えていくことを目的として平成二十八年十二月に公布・施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」においても、七月が「再犯防止啓発月間」とされています。

貴職におかれましては、社会を明るくする運動の趣旨及び再犯防止の必要性をご理解いただき、本運動等における諸活動が活発に行われますよう、ご協力をお願いいたします。

ゆたさるべとつ つにげーちひら



沖縄県教育委員会
教育長
金城 弘昌

社会を明るくする運動と連携を

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動で、昭和二十六年に始まり、今年で七十回を迎えました。

近年、少年が加害者又は被害者となる凶悪な事件が後を絶たず、少年非行の低年齢化に加え、SNSに関する悪質なトラブルや薬物使用など、少年が巻き込まれる事件・事故は多様化・複雑化しております。

本県におきましても、深夜はいかいや飲酒等の不良行為で検挙、補導される少年の総数が全体的に減ってきたとはいえ、依然として全国平均を大きく上回るなど、青少年の健全育成における課題は山積しております。

こうした情勢の背景には、家庭における教育力の課題や都市化に伴う人間関係の希薄化等、地域における犯罪や非行を防止する力が低下しているとの指摘もあります。

このような状況に対処するためには、家庭、地域社会、学校関係者が一体となり、子どもの居場所づくりなど、犯罪に巻き込まれない環境作りと健全育成活動を展開していく必要があります。

このような状況に対処するためには、

家庭、地域社会、学校関係者が一体となり、子どもの居場所づくりなど、犯罪に巻き込まれない環境作りと健全育成活動を展開していく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでに経験したことのない社会情勢のなか、安全・安心な環境で子どもたちの健全育成を図れるよう、従来にも増して、地域に根ざした幅広い活動を展開していかなくてはなりません。

県教育委員会としましても、主要施策として、地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成をめざし、家庭・地域の教育機能の充実にとりくんでおり、「やなれくる、ふかなれ」を合い言葉に、家庭教育力の向上をめざす「家なれ」運動を推進しているところであります。

今年度も、地域の犯罪や非行を防止する力を増進するため、本運動の一環である作文コンテストなど諸行動を通して、学校教育関係機関と更生保護ボランティアである保護司・更生保護女性会・BBSS会等が相互に連携し、誰もが参加できる地域に根ざした活動を展開して参ります。

社会を明るくする運動の社会的意義をご理解いただき、更生保護ボランティアや多くの地域住民と連携し、非行防止活動や青少年の健全育成を推進していただきますようご協力をお願いいたします。

令和2年度 更生保護表彰者

R 2.9.15
宮古保護区保護司会

番号	表彰名	氏名	備考
1	法務大臣表彰	池田健吉	
2	法務大臣表彰	濱元誠喜	
3	全国保護司連盟理事長表彰	儀間健	
4	全国保護司連盟理事長表彰(家族功労)	下地勝子	下地達男 保護司
5	九州地方更生保護委員会委員長表彰	池間誠	
6	九州地方更生保護委員会委員長表彰	砂川賢司	
7	九州地方更生保護委員会委員長表彰	仲間勝行	
8	九州地方更生保護委員会委員長表彰	普天間裕	
9	九州地方更生保護委員会委員長表彰	邊土名忠志	
10	九州地方更生保護委員会委員長表彰	與那覇絹江	
11	九州地方保護司連盟会長表彰	大城千代子	
12	九州地方保護司連盟会長表彰	垣花泰克	
13	九州地方保護司連盟会長表彰	下里隆	
14	九州地方保護司連盟会長表彰	宮國芳美	
15	九州地方保護司連盟会長感謝状(内助功労)	奥濱初子	奥濱実 保護司
16	那覇保護観察所長表彰	知念安則	
17	沖縄県保護司会連合会長表彰	亀川隆	
18	沖縄県保護司会連合会長表彰	川満秀海	
19	沖縄県保護司会連合会長表彰	砂川栄徳	
20	沖縄県保護司会連合会長表彰	平良ヒロ子	
21	沖縄県保護司会連合会長表彰	根間康雄	
22	沖縄県保護司会連合会長感謝状(内助功労)	下地薫	下地博盛 保護司

【報告事項】

9月29日に事務局長の砂川克佳氏が急死したため、10月7日午後3時から普天間裕前会長の列席もお願いし、第7回理事会・専門部正副部長会を開催し事務局長の選任を行った。その結果事務局長に下地達男、会長に大城千代子、研修副部長に邊土名忠志をそれぞれ選任致しました。

【お知らせ】

受賞者の皆さん誠におめでとうございます!!

令和2年度更生保護大会は、12月10日(木)に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

しかしながら、那覇保護観察所から手塚徹所長が来島し、下記のとおり表彰伝達式を実施することになりましたので、受賞者の皆様方全員ご出席下さるようお願い致します。

また、保護司会としては、延期になっていました第1期定例研修会も開催する予定ですので、併せてお知らせ致します。

記

◎更生保護表彰伝達式・第1期定例研修会

日時：令和2年12月16日(水) 午後3時

場所：更生保護サポートセンター